



広島暑い夏。この言葉を聞けば、あの痛ましい原爆の悲劇がすぐに思い起こされます。8月6日の平和記念式典には悲惨な戦争を二度と起こさせないため

に外国の人達もたくさん参加します。

(株)プローバ

40人以上を派遣して清掃していただきます。その延長ともいえます。『どぶさらい』に近い作業もこなしてきた

周辺は以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプローバでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

バでは以前から地元の人達で、平和への願いを込めながら汗を流しています。もともとプロー

実績があります。

プローバは広島市を中心にパチンコで14店、ゲームセンターを16店、ほかにカラオケ店やボウリング場なども経営している大きな企業ですが、

社会貢献に対する意識も高く、ほかにもさまざまな活動を続けています。

交通事故や犯罪の被害者への支援を目的に毎年12月には募金を行います。お客様からお金やパチンコ玉、

メダルなどで応援をいただき、昨年は52万8578円が集まりました。

それに会社からの出費をプラスして100万円を被害者支援センターに送りました。「加害者が守られるのに被害者が守られていない現状を考

えてのことです」と松崎史成広報はその趣旨を話しています。

募金活動はこれに限らず、自然災害の起きたときなども、全店に募金箱を設置して、社員やお客様から募

ります。昨年はミャンマーサイクロン、中国四川省地震で、56万5783円の寄付と合わせて80万円を日本赤十字社に寄託しました。

地域とのつながりを大切にしているプローバでは、催しものも得意です。

例えば自社店舗のある黒瀬町では、夏祭りの花火打ち上げ費用のため、会場でチャリティバザーを行います。

フットサル大会を楽しむ若者たち



社員が玩具、食器、衣類などを持ち寄り、昨年は4万9550円を売り上げ、店舗内の募金と合わせて10万3947円を寄付しました。

また1997年から実施しているのがフットサルの中国大会プローバカップです。昨年の大会では103チーム777名が参加し、強い弱さにかかわらず、会場は楽しさいっぱいの歓声に溢れていました。運営費については県内企業や遊技関連企業からの応援もあります。

若くしてトップになった頃から社会貢献に力を入れてきた平本将人社長は「地元の人達とのふれ合いを大切にしてきました。私達の企業は常に社会に目を向けて、行動しなければなりません。先輩方の姿をみながらやってきただけです」と謙遜して



清掃はどんな所でも手を抜かない

いますが、社名のプローバがイタリア語で「挑戦」を意味しますから、その意欲は並々ならぬものがあるといえます。

もうひとつ社会へのアプローチを試みる活動がありました。12月9日の障害者の日にあわせて、社の休日に社の施設を開放して、障害者作業所で働く人達に楽しんでもらいます。昨年は6団体98人が、ボウリング、カラオケから、もちろんパチンコやゲームに1日を過ごしました。その際、車イス1台を寄贈し、全員におみやげを配ります。この「障害者ふれあいフェスティバル」は関係各所から大いに喜ばれており、これも社会の中での企業のあり方を追求する「挑戦」のひとつです。